

お焼香の正しい作法

法要中にお焼香をするときには、まず導師に一礼してご宝前に進み一拝いたします。それから右手の親指と人差指の二本の指の先で軽く香をつまみ、左手を下にそえて頭を軽く下げ頂戴します。

そして火種にそっとそそぎます。これを三回繰り返すのが正式です。ただ参列者が多勢のときには限られた時間内に皆がするわけですから、ていねいに一回するだけでよいでしょう。もし香でなくお線香をあげるようになっているときも、やはり三本か一本にして下さい。この場合、お線香に炎がでて口で吹き消してはいけません。

香は古くから「信心の使い」といわれ、お焼香をすることによって、その匂いが自らの内にある仏性を目覚めさせるとされています。また「仏の使い」ともいわれ、浄らかな信仰の真心が香の煙にのって仏さまに伝えられるともいわれております。

お寺にある有名人のお墓

一、中島源蔵

一八二九—一八六八南部藩勤皇の志士、家老檜山佐渡へ熱心に勤皇を説いたが入れらず大阪で「奸臣殺忠臣」と血書し自刃した。庫裡に槍三振所蔵す。

二、常磐津林中

一八四二—一九〇六邦楽家本名山陰忠助盛岡生れ、九代目団十郎のタテ地方を務め、声冴えわたる名人芸で満座をわかせた。

三、原勝郎

一八七一—一九二四盛岡生れ東大卒、京大教授時代西洋中世史日本中世史について名著を残し、また外国語による最初の日本通史を書いて外人に紹介した著者としても有名である。

四、板垣征四郎

一八八五—一九四八陸軍大将陸相沼宮内生れ。関東軍参謀長として敏腕を振りシンガポール第七方面軍司令官で終戦を迎え、極東軍事裁判でA級戦犯として絞首刑となった。